

武雄市・鹿島市・嬉野市・杵島郡（大町町・江北町・白石町）・藤津郡（太良町）の文化財散歩

国・県指定重要文化財（建造物）、史跡・天然記念物（動物を除く）、重要伝統的建造物群、登録文化財



武雄市

重要文化財

(1)武雄温泉新館及び楼門



武雄市武雄町大字武雄

温泉通りの突きあたりに位置する。これらの建物は、唐津出身の辰野金吾博士の設計であり、新館は大正3年8月に、楼門は大正4年4月に竣工した。新館には、男・女大浴場・上湯湯、和室等がある。竜宮門形式をとる楼門は、木造二重門で、左右に平屋の翼屋が張り出す。扁額の「蓬莱泉」は明治期の書聖、中林梧竹の筆による。

史跡

(4)肥前磁器窯跡

武雄市山内町

江戸時代初期に朝鮮の技術者が有田町泉山で磁石場を発見したことは、我が国の陶磁器生産に大変革をもたらし、有田周辺に多くの磁器窯が築かれた。武雄市山内町の百間窯跡は、多様な装飾技法を駆使し、製品の種類が多い磁器窯である。

佐賀県史跡

(7)玉島古墳



武雄市橋町大字大日字玉島

虚空蔵山から北東に延びる丘陵裾部に位置する。南北約48m、東西約42mの県下最大級の円墳で高さ約9m。墳丘には葺石が施され、埴輪も立てられていたようである。石室は横穴式石室で、初現的な構造を持つ。遺物は玄室から日本製変形文銅鏡、砥石、碧玉製管玉、ガラス製小玉鉄製削のほか、武器・武具・工具などが出土した。6世紀初頭の築造と推定される。

史跡

(2)おつぼ山神籠石



武雄市橋町大字大日 おつぼ山

杵島山の西麓に築かれた古代山城で、全長1.8kmにわたり切石が楕円状に一周し、途中門跡2カ所、水門4カ所を有する。発掘調査の結果、神籠石が土塁や柵列を有する古代城郭であることが、初めて確認できた記念碑的遺跡である。築城は7世紀頃と推定されるが、正確な年代、目的、性格等は明らかでない。

佐賀県史跡

(5)潮見古墳



武雄市橋町大字永島

潮見川西側の丘陵傾斜面に立地。径25m、高さ5mの円墳と推定されるが、羨道部分の盛土は山道や畑で破壊され残存状況はあまりよくない。内部主体は南に開口する横穴式石室で、奥壁に平行して屍床がある。副葬品は装身具・馬具・武器・武具・鏡・冠など豊富で、馬具の一括資料が注目できる。築造時期は6世紀中頃と考えられる。

佐賀県史跡

(8)多蛇古墳(1号墳)



武雄市朝日町大字甘久字栗原

柏岳南東のなだらかな丘陵上に築造された前方後円墳。前方部の削平等により、規模は確定できないが、復元全長は約50mになる。古墳の主体部は未調査のため不明で、葺石・埴輪・周溝等の外構施設は確認されていない。墳丘の形態や隣接する2号墳の調査結果から、4世紀後半～5世紀前半の築造と推定される。

史跡

(3)肥前陶器窯跡



武雄市

武雄市の北部に所在する。内田系の小峠窯跡は刷毛目、三島手などの陶器と、染付・青磁が出土、17世紀前半頃の窯跡と推定される。内田系の大谷窯跡は刷毛目、二彩が出土、17世紀後半の窯跡と推定される。黒牟田系の鯖谷窯跡は絵唐津が出土、16世紀末前後の窯と推定される。土師場物原山は江戸中期から後期のものとみられる。

佐賀県史跡

(6)矢ノ浦古墳



武雄市武雄町大字永島

白岩山の東尾根上に築かれた前方後円墳。全長37m。葺石・埴輪・周溝等は認められない。内部主体は後円部中央に土壙墓2基、後円部中心から前方部に寄ったところに石蓋土壙墓1基を確認。土壙墓は床や壁に粘土を貼り、人頭大の石で覆われている。副葬品は、一つの主体部から日本製の変形獣帯鏡が出土した。築造年代は5世紀前半と考えられる。

佐賀県史跡

(9)筒江窯跡



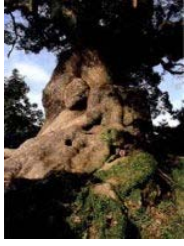
武雄市山内町大字宮野

黒髪山東麓に位置する筒江古窯群の一つ。全長60m以上、幅10mほどの大規模な階段状連房式登窯で、磁器窯として17世紀後半から明治15年ごろまで操業した。18世紀には青磁染付などの碗・皿類を中心に焼成した。窯跡の窯尻部の背後には宝永5年(1708)の石祠と慶応元年(1865)の再興記念碑(庚申塔)がある。

武雄市

天然記念物

(10)川古のクス



武雄市若木町大字川古大字大楠

日子神社の境内に、全国第3位の巨木といわれる大クスがある。根回り33m、目通り幹回り21m、樹高26m、枝張り東西26m、南北33mを誇り、樹齢は1000年を超えるものと推定される。幹にはかつて像高2.4m余りの観音像が刻まれていたが、長年の風雨で幹から分離している。

登録文化財

(13)如蘭塾塾舎及び寄宿舎、如蘭塾迎賓館



武雄市武雄町武雄

如蘭塾は中国女子の留学施設として実業家野中忠太が開設し、建物は昭和18年頃に建てられた。塾舎及び寄宿舎は、東西棟の塾舎に南北棟の寄宿舎棟がL型に取り付く。凝灰岩を用いた玄関の親柱はライト風の独特の構えになる。迎賓館は、塾舎及び寄宿舎の西側にあり、迎賓館としての風格を備える。両棟とも設計は遠藤新といわれる。

登録記念物

(16)旧武雄邑主鍋島氏別邸庭園（御船山楽園）



武雄市武雄町大字武雄（御船山観光ホテル）

御船山の断崖絶壁の南西麓に、弘化2年(1845)に武雄邑主鍋島茂義が京都から狩野派の絵師を招いて造った「萩の尾園」という別邸の池泉庭園を基礎とする。明治初期に一般公開されたが、明治末年荒廃したため、鍋島家が庭師巖谷喜平に管理を任せると、巖谷は庭園の区域を拡張しサクラや大量のツツジを植え、遊覧の名所としたという。

天然記念物

(11)黒髪山カネコシダ自生地



武雄市山内町大字官野 黒髪山

黒髪山は奇石がそそり立つ景勝の地であり、古くから山岳信仰の対象地として守られ、固有種や珍しい植物が数多く残っている。カネコシダもその一つで、ウラジロ科に属するシダ類の一種で、葉の裏面が表と同じ緑色であること等を除き、ウラジロとよく似ているばかりでなく、ウラジロと混生しているため容易に判別しにくい。

登録文化財

(14)桑原家住宅



武雄市朝日町甘久

旧長崎街道に東面して建つ妻入町家で、当初は呉服屋、その後は住宅や薬局として使用された。建築当初の間取りがよく残されている。棟木墨書により「棟梁橋口徳五郎」および明治15年の建築であることが判明した。

鹿島市

佐賀県重要文化財

(17)鹿島城赤門及び大手門



鹿島市大字高津原

鹿島城はもとは鹿島市常広に築かれていたが、たびたび水害を受けたので、文化3年(1806)に現在地に築城を始め、翌文化4年に完成した。本城は、明治7年の佐賀の役において、城の主要な建物をほとんど焼失し、当時のまま残存しているものは、赤門と大手門のみとなっている。

佐賀県天然記念物

(12)大聖寺のまき



武雄市北方町大字大崎 大聖寺

大聖寺は、杉岳山頂近くにある。この寺院の境内に、スギ・イチョウ・カヤなどの大木に囲まれて、4株のイヌマキの大木がある。4株中で最も大きく広がっているのは、前庭の南隅にあるマキで、根回り3.8m、目通り幹回り3m、樹高18m。本堂正面の庭先にある2株はやや小さい。特に大きい2株は樹齢300年以上と推定される。

登録文化財

(15)杉森家住宅



武雄市山内町大字官野

杉森家は江戸時代から医者を務め、明治時代には薬の製造も行った。杉森家住宅は主屋と二階門からなり、主屋は旧診療所と旧製薬所の建物からなる。明治24年に診療所の前面に洋風デザインで増築を行い、現在の外観が作られる。二階門はこの診療所増築時に新築されたもので、二階建てで、洋風デザインを取り入れて建築された。

佐賀県重要文化財

(18)祐徳稲荷神社境内社命婦社



鹿島市古枝乙 祐徳稲荷神社

祐徳稲荷神社は鹿島支藩3代藩主鍋島直朝の夫人が、京都花山院邸の稲荷神社をここに移して祀ったことに始まる。貞享年間(1684～1688)社殿を建立したとき命婦社を祀った。現在の社殿は、棟札から享和4年(1804)の建立と知られ、祐徳稲荷神社が大正15年に再建されたとき、旧本殿であったこの建物を現在地に移転したものである。

鹿島市

佐賀県史跡

(19) 鬼塚



鹿島市大字納富分

有明海に臨む平地に築かれた円墳。直径約30m、高さ約5mで、墳丘上には葺石が散在する。内部主体は横穴式石室で、全長16.2m、高さ約3mで、これに長さ11.1m、幅約2mの長大な羨道がつく。この石室は、伊勢塚前方後円墳と並ぶ巨石墳である。築造年代は7世紀代と考えられる。

登録文化財

(22) 肥前浜宿継場



鹿島市浜町

旧長崎街道多良往還沿いに建っており、宿場での人馬の継立などの業務が行われていたことから、「継場」と称される。往還に南妻面を見せた間口4間半の妻入商家で、1階の表構えは揚戸の形式とし、2階は小庇付きの窓2箇所を開ける。内部は東側を土間に充て、西側にミセ、チャノマ、ザシキを一列に並べ、土間奥をカマヤとする。

登録文化財

(25) 矢野酒造



鹿島市大字高津原新町

JR肥前鹿島駅に近い旧長崎街道多良往還に東面して建つ。主屋は、内部南側に通り土間を配し、北側の表を土間の事務所とする。また、接客用として木造二階建の離れがある。旧精米所は木造平屋建、東蔵・中蔵・西蔵はいずれも木造二階建、麴室は煉瓦造及び木造平屋建である。

重要伝統的建造物群

(20) 鹿島市浜庄津町浜金屋町伝統的建造物群保存地区



鹿島市浜町多々良川ほか

浜川河口の右岸に位置し、多良海道(長崎海道の脇街道)が町の中央部を通る。藩政期には、多良海道の中継地で、かつ港町であったことから、浜庄津町には商人や船乗りが、浜金屋町には鍛冶屋や大工などの職人が住み、鹿島藩最大の商工業の町として賑わっていた。

登録文化財

(23) 富久千代酒造



鹿島市浜町

一号蔵は寄棟造、棧瓦葺の2階建酒蔵で、南面に下屋を付ける。内部は1階が仕込蔵で、西側が槽場、2階が倉庫、下屋が製品倉庫に充てられる。精米所は切妻造、棧瓦葺の木造平屋建で、造り酒屋の酒造場に欠くことのできない施設である。麴室は切妻造、棧瓦葺の木造平屋建で、内部には麴室を2室設け、東面に下屋を差し掛ける。

登録文化財

(26) 飯盛酒造



鹿島市浜町

通称「酒蔵通り」に建つ。主屋は木造二階建、東側土間部の外壁は塗屋造で、西側の居室部は真壁造。一号蔵は土蔵造2階建で、かつては仕込蔵。二号蔵は一号蔵と麴室を繋ぐために増築された。三号蔵はもと槽場及び瓶詰め場。麴室は煉瓦造平屋建で、洋風トラス小屋組みの屋根を架ける。煙突は高さ9mの煉瓦造で、以前の銘柄「玉の香」の文字が残る。

重要伝統的建造物群

(21) 鹿島市浜中町八本木宿伝統的建造物群保存地区



鹿島市浜町字一本松ほか

浜川に並行して多良海道が横断し、近世宿駅が設けられ、江戸中期頃からは酒造業が盛んで、昭和前期にピークを迎えた。近世大火が度重なり、文政11年(1828)の大火以降、居蔵造の町家が建設され始めた。通称「酒蔵通り」と呼ばれ、白壁の居蔵造に真壁造・茅葺の町家などが混在する。

登録文化財

(24) 呉竹酒造



鹿島市浜町

主屋は旧長崎街道多良往還に南面して建つ。2階建で、東面下屋部は事務所とし、玄関通り土間西側には4室を一列に並べる。一番蔵は2階建酒蔵で、中央を作業場とし、西側に米洗所・釜場などを配し、東面に精米所と麴室を付属する。東の蔵は2階建仕込蔵で、西側を貯蔵庫と分析試験室、東側を槽場に充てる。

登録文化財

(27) 中島酒造場



鹿島市浜町

旧長崎街道往還の通称「酒蔵通り」に建つ。主屋は木造二階建の塗屋造で、店舗を中心として、西側に離れ座敷・土蔵が、東側に倉庫が、主棟土間の背後には釜場が接続する。仕込蔵は土蔵造2階建、南北棟2棟からなるが、現在では間の壁を撤去している。西蔵は土蔵造二階建の貯蔵庫、麴室は土蔵平屋建である。

鹿島市

登録文化財

(28)旧中島政次家住宅



鹿島市浜町

旧長崎街道多良往還を挟んで中島酒造の向いに建ち、中島家本家から分家した際に建てられたとされる。棟木墨書に、明治27年棟梁小川米吉によると記す。木造二階建、入母屋造の棧瓦葺である。外壁は白漆喰塗の大壁造で、二階の窓に銅板張の防火扉がつく。内部は東側を土間、西側を居室とする。

佐賀県重要文化財

(31)石造眼鏡橋



嬉野市塩田町大字谷所 八天神社

八天神社の神橋として、当時在住の石工が、嘉永5年(1852)に着工し、嘉永7年に完成させたもの。一連のアーチ形的眼鏡橋であり、全長11.14m、幅3.69m、高さ4.65m。橋の両側に、高さ0.7mの欄干が付き、舗道にはゆるやかな曲線をえがいている。

佐賀県天然記念物

(34)唐泉山の椎の天然林



嬉野市塩田町唐泉山

標高410mの唐泉山の頂上には八天神社の上宮があり、この社殿を中心に約10haのシイの天然林が広がっている。唐泉山のシイは、大部分がスダジイで、ツブラシイがその中に混生しており、大半は根回り3m前後であるが、中には6m以上の大木もある。樹高はほとんどが16mを越え、10mから15mおきにそびえ立っている。

登録文化財

(29)吉田家住宅



鹿島市大字中村

吉田家は旧鹿島村の地主を務め、明治以降は貸金業や米穀商として繁栄した。住宅は明治23年(1890)吉田次平により建築されたが、次平は、村会議員、藤津郡議会議員を務める名士であった。主屋は、旧長崎街道に正面しており、木造和小屋二階建居蔵造りの建物。

史跡

(32)肥前磁器窯跡

嬉野市嬉野町大字不動山

江戸時代初期に朝鮮の技術者が有田町泉山で磁石場を発見したことは、我が国の陶磁器生産に大変革をもたらし、これにより有田周辺で多くの磁器窯が築かれた。嬉野市の不動山窯跡は、5基以上からなる皿屋谷窯跡群の一部で、染付芙蓉手皿や、青磁の大物が多く出土している。

重要伝統的建造物群

(35)嬉野市塩田津伝統的建造物群保存地区



嬉野市塩田町大字馬場下甲

旧長崎街道沿いという地の利と旧塩田川の水運を活かして栄えた。表通りには江戸期に遡る平入りや妻入り居蔵造の町家が数多く現存し、これらを背景として、河川沿いには土蔵や座蔵、石垣が展開している。火災や風水害にたびたび見舞われたため、茅葺から瓦葺へ、真壁造から大壁造へと変化した。また、寛政元年(1789)の大火から居蔵家が普及し始めた。

嬉野市

重要文化財

(30)西岡家住宅



嬉野市塩田町大字馬場下甲

塩田川を利用した船運の集散地として栄えた白壁造りの町並みに建つ、この地域屈指の豪商の屋敷である。19世紀中頃の建築と推定され、佐賀県内における本格的町屋の一つである。欄間等の内部意匠にも優れ、軒を支える大きな持送りには、地方色が強い。

天然記念物

(33)嬉野の大チャノキ



嬉野市嬉野町大字不動山字白川乙

慶安年間(1648~52)に吉村新兵衛が種を蒔いて始めたといわれる嬉野茶、その内の1本が残りの大チャノキになったと伝えられる。茶はツバキ科の常緑低木で、通常は大きくならないが、この大チャノキは推定樹齢300年以上といわれ、最大のもので根回り38cmの樹幹が30数本成長し、枝張り8m、樹高4mにもなる巨木である。

登録文化財

(36)杉光陶器店



嬉野市塩田町

塩田川の船運を利用した物資の集散地として栄えた旧長崎街道沿いの宿場町の一面に、江戸時代末期に建てられた。主屋は、土蔵造、妻入りの大型町屋で、各蔵は縦板を貼って意匠をあわせる。各蔵は、陶磁器の倉庫として使用されているが、三の蔵は、明治43年から大正5年まで、塩田銀行として使用された。

嬉野市

登録文化財
(37)池田家住宅



嬉野市塩田町大字五町田

主屋は江戸末期から明治初期頃に建てられたクド造の茅葺きの在郷武士住宅と考えられる。大正時代に接客空間の充実を図るために改修される。主屋は現在、寄棟造棧瓦葺き、平入りで上屋の壁面を土蔵として軒裏を折上げている。座蔵は南側を入母屋造、北側を切妻造とする2階建。石垣は、山裾の土地の段差を切り取る形で前庭を形成する石垣が配置されている。

佐賀県史跡

(40)道祖谷古墳



杵島郡白石町大字馬洗字道祖谷

犬山岳から東に派生する尾根上に立地する前方後円墳。全長85m前後。前方部・後円部ともに三段築成で、葺石を持ち、また円筒埴輪・朝顔形埴輪が出土している。内部主体は明らかでないが、横穴式石室と推定され、後円墳頂に設置されている施設の下に位置するものと考えられる。6世紀後半の築造と推定される。

佐賀県天然記念物

(43)稲佐神社の楠



杵島郡白石町大字辺田稲佐 稲佐神社

神社境内には、推定樹齢300年を越す多くのクスが繁るが、樹齢600年以上と推定される巨大な2株が指定される。鐘楼東側の1株は、根回り26m、目通り幹回り10m、樹高17m、枝張り19m。社務所東側の1株は、根回り19.2m、目通り幹回り10.5m、枝張り18.9m、樹高は26.5mで、県内で最も高い。

大町町

重要文化財
(38)土井家住宅



杵島郡大町町大字大町

旧長崎街道に面した住宅で、以前は酒造業を営んでいた。建築年代は、構造形式・彫刻などの模様から19世紀初頭と推定される。土間が広く、街道筋の町家でありながら農家風のところもあり、この地方の大型町家の一形態であると推定される。

佐賀県史跡

(41)龍王崎古墳群



杵島郡白石町大字深浦

海童神社境内背後の尾根上や斜面に現存する径14~17mの円墳群。内部主体は横穴式石室で、5世紀後半から6世紀代に築造された。6号墳は巨石を用いた石室で、玄門左袖石の前室側に家屋文様の線刻が施される。1号墳から金銅製胡禄金具や垂飾付耳飾、3号墳からぼう製七獣鏡・金銅製鈴・金銅製釧・三輪玉・座金などが出土した。

太良町

佐賀県重要文化財
(44)竹崎観音石造三重塔



藤津郡太良町大浦竹崎 竹崎観音

竹崎観音は竹崎島にある真言宗仁和寺派の古寺。境内には凝灰岩製の三重塔が2基ある。蓮華文様の塔の現存高は1.69m、孔雀文様の塔は1.73m。前者の軸部には4面に龕が彫られ、中に如来坐像が半肉彫りで表わされる。後者には、前後両面に龕と如来坐像が、左右側面には扉の閉じた堂一部が表わされる。

白石町

佐賀県史跡
(39)妻山古墳群4号墳



杵島郡白石町大字馬洗字道祖谷

栗岡山から東に延びる丘陵南斜面に築造された横穴式室をもつ円墳。石室内に線刻画がある。墳丘は東西径約12m、南北径約11m、高さは現状で約3.5m、葺石が認められる。線刻画はゴンドラ形舟、人物、動物、格子目、鋸歯、円文と豊富で、玄室内から金銅装束頭太刀柄頭、金銅装太刀片、金銅製太刀真金具、銅釧等が出土した。6世紀後半の築造と考えられる。

佐賀県天然記念物

(42)海童神社の楠



杵島郡白石町大字深浦 海童神社

樹齢600年以上と推定される。斜面にあるため根がむきだしになっており、その高低差は7m。根元近くから3本の主幹に分かれる。主幹の幹回りはそれぞれ、11.5m・3.45m・2.7mあり、最も大きい幹は、樹高19m、枝張り南北22.5m。地上5mの所で、主幹3本の内2本が互にくっつく。主幹には大きな空洞があるが、樹勢は旺盛である。

全域

天然記念物

(45)カササギ生息地



県内8市8町

カササギは佐賀県の県鳥であり、カチガラスの愛称で親しまれている。カラス科に属し、雑食性で、北半球全域に生息するが、日本では佐賀平野を中心に分布する。1月から6月が繁殖期で、4月から5月に巣立ちをする。